

2015年12月11日

Bellicum 社とのがんにおける 細胞治療法に関する提携のお知らせ

*Bellicum 社は PSCA を発現する固形がんを標的とした養子細胞療法を
開発する権利を取得
アステラス製薬、又は Agensys 社は日本における商業化の
オプション権を留保*

アステラス製薬株式会社（本社：東京、代表取締役社長：畑中 好彦、以下「アステラス製薬」）と Bellicum Pharmaceuticals, Inc.（NASDAQ: BLCM、本社：米国テキサス州、CEO: Thomas J. Farrell、以下「Bellicum 社」）は、本日、アステラス製薬の連結子会社である Agensys, Inc.（以下「Agensys 社」）と Bellicum 社が、Agensys 社が開発した前立腺幹細胞抗原（PSCA）抗体を用いた、CAR-T 細胞などによる養子細胞療法に関する開発及び商業化の権利を Bellicum 社に供与する全世界におけるライセンス契約を締結しましたのでお知らせします。

PSCA は、前立腺がん、膵臓がん、膀胱がん、食道がん及び胃がんなどに発現するがん抗原です。Bellicum 社が開発中の BPX-601 は、PSCA を標的とした GoCAR-T™^{*1} 開発候補細胞であり、前臨床試験で強力な抗腫瘍効果を示しています。GoCAR-T™は、Bellicum 社が特許権を有する技術であり、その技術における MC (MyD88/CD40) 分子スイッチは、患者さんの体内で GoCAR-T™細胞の活性、増殖及び持続に関する薬理的制御を可能にします。Agensys 社が有する PSCA 抗体に関する技術を、まずは開発が先行する BPX-601 に導入することにより開発の加速化を図ります。

Bellicum 社の President and CEO である Thomas J. Farrell 氏は次のように述べています。「Bellicum 社の CAR-T 細胞技術にとって、PSCA は大きな可能性を有するがん標的分子です。今回のライセンス契約は、アンメットニーズの高い多くのがんを対象とした Bellicum 社の BPX-601 の開発をさらに前進させるものです。BPX-601 で膵臓がんを最初の目標適応症として開発中のプログラムを、2016 年前半に臨床段階まで進展させることを期待しています。」

アステラス製薬の上席執行役員・経営戦略担当である安川 健司は、次のように述べています。「Bellicum社は、開発プログラムをより進展させる可能性を持つ革新的な高

い技術を有しており、この度、同社と提携することを嬉しく思います。両社の技術により、一日も早くがん患者さんへ新たな治療の選択肢を提供できることを期待しています。本提携は、アステラス製薬が積極的に取り組むがん免疫領域戦略上の重要な一手であり、引き続きがんの細胞治療法を含むがん免疫の分野に積極的に投資していきます。」

本ライセンス契約の条件に基づき、Agensys 社は、Bellicum 社から契約一時金を受け取り、臨床開発及び販売マイルストーンに基づく一時金、並びに製品売上げの一桁台パーセントをロイヤルティとして受け取る可能性があります。アステラス製薬、又は Agensys 社は日本における BPX-601 をはじめとする Bellicum 社が開発した PSCA 抗体に関する技術を用いた製品の商業化のオプション権を留保します。この権利を行使した場合、Bellicum 社は権利行使に伴う支払いをアステラス製薬、又は Agensys 社から受け取り、Agensys 社への臨床開発、及び販売に関するマイルストーンは減額されます。また Bellicum 社は、日本における当該製品の売上げに基づくロイヤルティをアステラス製薬、又は Agensys 社から受け取ります。

以上

***1)GoCAR-T™** : GoCAR-T™は、CAR-T 細胞の活性化を分子制御できる技術です。通常の CAR-T 治療では、CAR 遺伝子が導入された T 細胞ががん細胞と結合すると、T 細胞が制御不能状態で活性化し、副作用を示すことがあります。一方、GoCAR-T™は、T 細胞ががん細胞と結合しても rimiducid^{*2)}が無い状態では活性化しません。rimiducid を投与することで初めて T 細胞が活性化し、がん細胞への攻撃が開始します。このように、T 細胞の活性化を制御できることから、従来の CAR-T 療法と比較して副作用の低減が期待できる技術です。

***2)rimiducid** : GoCAR-T™において T 細胞内に発現させている MC (MyD88/CD40) 分子の二量体を形成させる低分子です。MC 分子の二量体形成の有無により T 細胞の活性化を調整することができます。

#####

アステラス製薬について

アステラス製薬株式会社 (<http://www.astellas.com/jp/>) は、東京に本社を置き、「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」ことを経営理念に掲げる製薬企業です。既存の重点疾患領域である泌尿器、がん、免疫科学、腎疾患、神経科学に加えて、新たな疾患領域への参入や新技術・新治療手段を活用した創薬研究にも取り組んでいます。さらには各種医療・ヘルスケア事業との融合による新たな価値創出にも挑戦しています。アステラス製薬は、変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの価値に変えていきます。

Bellicum 社について

Bellicum 社は、がん及び遺伝性希少血液疾患に対する細胞免疫療法の臨床的な研究開発を専門とするバイオファーマ企業です。Bellicum 社は、化合物による二量体形成（CID：Chemical Induction of Dimerization）に関する特許権を有し、免疫システムの構成要素を設計及び制御する技術基盤として応用しています。さらに、造血幹細胞移植（HSCT）、CAR-T 細胞及び TCR 細胞療法などの細胞免疫療法において最も重要な領域の一端を担う次世代候補の製品を開発しています。詳細は www.bellicum.com をご覧ください。

お問い合わせ先
アステラス製薬株式会社 広報部 TEL:03-3244-3201 FAX:03-5201-7473 http://www.astellas.com/jp